



平成17年11月7日

各 位

上場会社名 阪神電気鉄道株式会社  
本店所在地 大阪市福島区海老江1丁目1番24号  
コード番号 9043  
上場取引所 東京・大阪(第一部)  
決算期 年1回、3月31日  
問合せ先 広報室部長 黒木 敏郎  
TEL (06)6457-2130

### 阪神甲子園球場リニューアル計画基本構想について

阪神甲子園球場は、大正13(1924)年8月1日の開設以来、「野球の聖地」として数々のドラマを歴史に刻み、全国の皆様に親しまれてきました。

しかし、同球場も約80年の年月を経た現在、施設の老朽化は着実に進んでおり、顧客に満足していただくための設備機能の面において、他球場と比べて劣る点が見られる状況にあります。

そのため、当社では、かねて球場リニューアルについての検討を重ね、球団を初め関係各位との協議を鋭意行ってまいりました。

今般、当社は、下記のとおり、阪神甲子園球場がこれまで築いてきた「歴史と伝統」を継承し、今後とも、末永くご愛顧いただけるよう、同球場の全面的なリニューアル工事を行うこととし、阪神甲子園球場リニューアル計画基本構想を決定いたしましたのでお知らせいたします。

なお、同リニューアル計画の具体的内容については、おって、決定次第お知らせする予定です。

### 記

#### 1. 阪神甲子園球場リニューアル計画基本構想の概要

##### (1) 趣旨

阪神甲子園球場は、阪神タイガースとともに当社グループを代表するブランドであり、また、当社グループの中核であるベースボール事業の価値向上に不可欠な経営資源であります。また、高校野球大会の開催地としての社会的役割を含め、その存在は、公共的財産ともいえます。このような認識の下、当社グループは、阪神タイガースのブランド価値向上への取組みはもちろんのこと、阪神甲子園球場の施設の老朽化対策や機能の維持向上が、中長期的な視点から必須であると考え、同球場の全面的なリニューアルに取り組むものであります。なお、ベースボール事業のみならず、かかるブ

ランド価値の向上等による、グループ全体でのシナジー効果の発揮にも引き続き注力してまいります。

(2) リニューアル工事の概要

コンセプト

リニューアルに当たってのコンセプトは、次のとおりです。

ア 歴史と伝統の継承

イ 安全性の維持向上

ウ 快適性の確保

エ その他環境への配慮やスタジアムビジネスの拡充など

工期予定

着工 平成19(2007)年 野球シーズン終了後から

竣工 平成22(2010)年 春

(注)プロ野球・高校野球は、引き続き開催していくこととし、上記工事は、原則として、シーズンオフ(3期に分割)を中心に行う予定です。

投資額

約200億円

座席数(予定)

約47,000席

リニューアルの主な内容(予定)

外壁やスタンドなどの補強、躯体補修など耐震性の維持向上、銀傘の架替え、座席の新設・改良、トイレ・喫煙コーナーの設備増強、場内売店の改良など、抜本的な施設リニューアルを行います。なお、併せて球団のクラブハウスを新設(平成18年5月着工、平成19年3月竣工予定)します。

2. 当期の業績への影響

当期の業績への影響はありません。

以 上

平成17年11月7日

## 阪神甲子園球場リニューアル計画基本構想について

阪神甲子園球場は、高校野球大会の開催を目的として大正13（1924）年8月1日に開設以来、80年以上にわたり、「野球の聖地」として数々のドラマを歴史に刻み、全国の皆様に親しまれてきました。

この間、お客様に安心してご来場・ご観戦いただけるよう、常に施設の維持更新に注力し、平成7（1995）年に発生した阪神淡路大震災も乗り越えてきましたが、老朽化は進んでいます。また同時に、お客様を初め、選手・関係者のアメニティという点においても近年新築された他の球場と比べて見劣りする状況となっています。

そこで、これら諸懸案を抜本的に改良するため、現在の予定では、平成19（2007）年の野球シーズン終了後から、全面的なリニューアル工事を行うことといたしました。

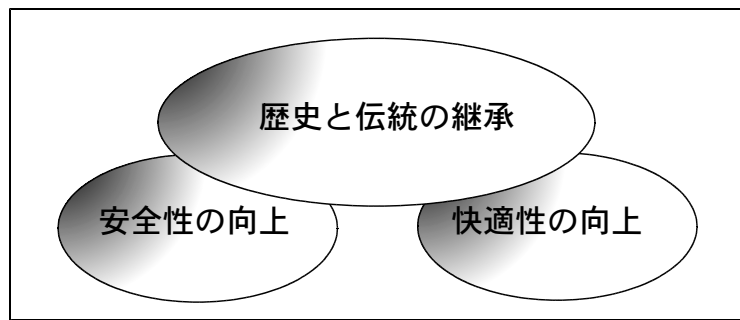
阪神甲子園球場は、高校野球の開催球場（教育の場）として、また、プロ野球・阪神タイガースのフランチャイズ球場（娯楽の場）としての二つの顔を持ち、これまで日本の野球文化振興の歴史とともに伝統を築いてきました。

今回のリニューアル計画は、この「歴史と伝統」を今後も継承していくため、老朽化対策と耐震補強を行うことで「安全性」をより向上させるとともに、スタジアムとして、増加している女性の方を初め、ご来場されるすべてのお客様に喜んでいただけるよう「快適性」を高め、更に、今日社会的課題とされる「環境」へも配慮したものをと考えています。

リニューアル工事の概要は以下のとおりです。

### 【リニューアル工事の概要】

#### 1 コンセプト（イメージ図）



#### 2 工期予定

着工 平成19（2007）年 10月

竣工 平成22（2010）年 3月

※シーズンオフ（3期に分割）を中心に工事を行い、高校野球・プロ野球は開催予定です。

#### 3 投資額

約200億円

#### 4 主な内容

##### (1) 歴史と伝統の継承

###### ① ツタの再生

外壁増強・改修工事のため、一旦伐採した後、既存のツタの種子より事前に育てた苗木を植樹します。

②銀傘の架け替え

概ね竣工当時（大正13年）と同じく内野席全体（アルプスは除く）を覆う新銀傘に架け替えます。

③グラウンドの継承

黒土と天然芝のグラウンドを継承します。

④スコアボードの継承

シンボリックな現在の形状を継承します。

(2)安全性の向上

①耐震補強工事

柱・梁・壁等の増強による、現行法規を満たした耐震補強工事を行い、阪神淡路大震災クラスの地震にも十分耐えられる安全性を確保します。

(3)快適性の向上

①座席の改良・新設

総席数 …約47,000席

前後間隔…内野席80～90cm程度（現状 65～90cm）

アルプス・外野席65cm程度（現状 60～65cm）

横配列 …内野席はすべて10席以下、アルプス・外野席は標準16席程度の配列となるよう縦通路を増設します。

スイート席 …新銀傘下に新設します。

フィールド・ボックス席…現在のボックス席を取り込み、フェールグラウンドへせり出す（“砂かぶり”席） 形で新設します。

車いす席…全エリアに増設するのに伴い、エレベーターの設置も検討します。

②トイレ・喫煙コーナーの整備

現在の配置と数を大幅に見直し、混雑緩和を目指します。また、セパレートされた喫煙室の設置を検討します。

③新たな商品・サービスの提供

スイート席、フィールド・ボックス席の新設を初め、飲食・物販店舗の改良、新規広告媒体の販売等を検討します。

④環境への配慮

これまでの井水の利用に加えて雨水利用も行います。太陽光発電の導入についても検討し、更新する設備は省エネ型を中心に採用します。また、球場周辺への騒音、光漏れ、ジェット風船の飛散等の緩和策を検討します。

5 タイガースクラブハウスの新設

タイガースの監督、コーチ、選手や関係者専用のクラブハウスを新設します。

（工期予定：平成18年5月着工、平成19年3月竣工）

6 リニューアル工事の予定

第Ⅰ期 平成19（2007）年10月～平成20（2008）年3月  
内野スタンド下諸室、銀傘撤去等

第Ⅱ期 平成20（2008）年10月～平成21（2009）年3月  
新銀傘・スイート席の設置、アルプスエリア及び外野エリアの更新等

第Ⅲ期 平成21（2009）年10月～平成22（2010）年3月  
内野観客席の更新等

〈資料提供先〉 青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、西宮市政記者クラブ、  
スポーツ紙各社、各社運動部

この件に関するお問合せは  
阪神電気鉄道株式会社 広報室 担当：吉田、金本、中本 TEL. (06)6457-2130

までお願いします。

リニューアル後の外観イメージ



リニューアル後のスタンドイメージ

